

## 会長挨拶

皆様、こんにちは。第35回日本産婦人科・新生児血液学会学術集会を担当する真部淳（まなべあつし）と申します。よろしくお願いいたします。

はじめに本学会の沿革を述べます。1976年に始まった産婦人科血液研究会が、1987年の第12回から産婦人科・新生児血液研究会と名前を変え、取り扱う範囲が広がりました。1991年に日本産婦人科・新生児血液学会となり、産婦人科・新生児に関わる臨床医と研究医が血液学を基盤として活動する専門学会となりました。ですので、学会としては今回第35回ですが、前の研究会時代を含めるとほぼ50年の歴史を有する由緒ある学術団体といえます。

過去に3回、北海道で開催されました。初回は1988年の第13回研究会で、北大産婦人科の鈴木重統先生が会長をされました。私は北大医学部の学生時代に、鈴木先生の周産期DICについての迫力ある授業を受けたことを覚えています。次いで、2000年に第10回学会が旭川医大産婦人科の石川睦男先生の主催で、2009年の第19回は北大産婦人科の水上尚典先生の主催で行われました。

この間のトピックスを見ますと、初期には止血・凝固のコントロール（産褥出血、羊水塞栓、ビタミンK欠乏性出血など）がメインでしたが、次第に血液疾患合併妊娠、先天的の血液疾患、遺伝医療、生殖補助医療など、血液学として広い分野が論じられるようになりました。2024年6月に愛媛大産婦人科の杉山隆先生を会長として行われた第34回学会では、周産期の問題から始まり、血友病の周産期管理、新生児・乳児の白血病まで実に広い分野がカバーされました。

今回は小児血液学を専門とする私に加えて、長年、北大NICUで活躍し、本学会で中心的役割を担ってきた新生児学の碩学、長和俊を副会長に迎え、二人三脚で臨みます。とともに、北海道内の3大学（北大、札幌医大、旭川医大）のスタッフなど、多くの専門家から成る現地組織委員会を立ち上げてプログラムを練っています。学会のテーマは「世代をつなぐ血液学」です。特別講演の演者として、札幌大学地域共創学群の本田優子先生をお招きします。先生には「アイヌ文化を次世代につなぐ」と題して、口伝で世代を繋いできたアイヌ文化についてお話しいたします。教育講演演者は北大病院小児成人移行期医療支援センターの長祐子先生で、「血液学からみた移行期医療支援」についてお話しいたします。

札幌の6月は晴天率が高く、また爽やかな良い季節です。本学会はアカデミックなことばかりでなく、お楽しみ企画も満載で臨む所存です。参加される皆様は普段は忙しく、また厳しい毎日を送られていると思います。この学会に参加し、志を同じくするたくさんの人たちと交流することにより、「私たちは、本当に良い仕事をしているのだ」という確信、Confidenceを持って帰っていただけるように頑張る所存です。よろしくお願いいたします。

なお、老婆心ながら一言。6月6日-7日は札幌市でよさこいソーラン祭りが大々的に開かれる可能性が高いです。早めの宿泊確保をお願いします。

第35回日本産婦人科・新生児血液学会学術集会  
真部 淳  
北海道大学大学院医学研究院小児科学教室 教授